

2011 G4（画像あり。コピー時注意）

参考：授業プリント、ステップ、現代の眼科学、NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学など。授業プリントは結構大事かも。

1. アレルギー性鼻炎の治療で間違っているもの

- a.ステロイド薬点鼻
- b.消炎鎮痛薬内服
- c.下鼻甲介粘膜切除
- d.減感作療法
- e.後鼻神経切断術

答え：b

薬物療法として抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、副腎ステロイド点鼻薬、抗コリン点鼻薬が挙げられる。その他の治療に、抗原回避、特異的減感作療法、翼突管神経切断術、内視鏡的後鼻神経切断術、粘膜焼灼術などがある。

【補足：アスピリン喘息を考えれば**b**が×なのは分かるでしょう。】

2.内視鏡的副鼻腔手術の術後後遺症で誤っているもの

- a. 複視
- b. 失明
- c. 髄液漏
- d. 流涙
- e. 顔面神経麻痺

答え：e

術後後遺症には、眼窩損傷による外眼筋麻痺や視力障害、硬膜損傷による髄液漏はある。また鼻涙管損傷もあるので流涙も見られると考えて良いと思われる。

3. アレルギー性鼻炎に関して正しいものはどれか。

- a. 季節性アレルギーは目のかゆみは稀
- b. 慢性副鼻腔炎は漿液性鼻汁
- c. スギ花粉はマスクしても意味がない
- d. スギ花粉はヒノキ花粉と合併しやすい
- e. 鼻涙管は中鼻道に開口

答え：d

a 稀ではない。b 慢性副鼻腔炎は膿性鼻漏。c は基本的な対策。E は下鼻道に開口。
d だがプリントに、スギとヒノキ科花粉アレルギーとの間には強い免疫学的交差反応性がある、との記載あり。」ちなみにヒノキはスギより 1 か月遅れて花粉が飛散する。

4. (解説不十分) ティンパノメトリーで誤っているのはどれか。

- a. 新生児の聴力判定に有用
- b. 滲出性中耳炎の検査につかわれる
- c. 耳管機能不全の検査につかわれる
- d. 耳小骨離断ではピークが高い
- e. 斐薄化鼓膜ではピークが高い

答え：a

新生児の聴力判定に使うのは ABR (脳性聴感反応：auditory brainstem response)。滲出性中耳炎では B,C 型のティンパノグラムが、耳小骨離断では Ad 型のティンパノグラムが見られる。

【補足：a については、そもそもティンパノメトリーは聴力を測るものではないので誤りとして良いと思います。c について。耳管機能不全では中耳の圧が変化するので、診断にティンパノメトリーが用いられます。e についてはよくわかりません (すいません)。】

5. 蝸牛について正しいものは？（解説不十分）

- a. 蝸牛は4回転半している
- b. 内リンパのカリウムイオン濃度は外リンパのそれよりも高い
- c. 生下時に有毛細胞は未分化である（未成熟となっていたかも...）
- d. 外有毛細胞の「毛」は微小管である
- e. 外有毛細胞が音刺激を電気刺激に変えている

答え：b 蝸牛はヒトでは2回転半。内リンパのカリウムは外リンパよりも高い。

【補足：aは「ヒトにおいて蝸牛は胎生8週（？）ぐらいまでに4回転半終えている。」みたいな選択肢だったような。もしかしたら他の問題の選択肢だったかも。いずれにしろ×です。cは知らんがな。dについて、教科書を2〜3種調べましたが「聴毛」としか載ってませんでした。正体は不明。微小管だけが細胞外に突き出すことは、まさかないと思うけど。eは外有毛細胞ではなく内有毛細胞。bが明らかなので、他の選択肢であまり悩まなくていいかも。】

6. 遺伝性難聴疾患で誤っているものを選べ。（不明）

- a. 腎障害などの先天異常を伴うものより、難聴が単独で起こるものの方が多い。
- b. 常染色体優性遺伝より常染色体劣性遺伝の方が頻度が高い。
- c. 生下時に異常がなくて、大人になってから発症するものも稀でない。
- d. 遺伝性難聴患者の7割以上にCTで内耳の低形成などの先天異常が見られる。
- e. 責任部位は蝸牛神経よりも内耳の障害であることが多い。

答え：? 遺伝性難聴では、難聴以外に障害のない非症候性難聴が70%を占めるからaは丸。

【補足：bについて。up to dateによると、The hearing deficit in hereditary hearing impairment (HHI) may be present at birth (congenital), progressive from birth, or it may develop when the child is older. Approximately 80 percent of cases of HHI are inherited in an autosomal recessive pattern, 18 percent are autosomal dominant, and 2 percent X-linked recessive [38]. In rare patients, HHI reflects a defect in the mitochondrial rather than nuclear DNA [36]. 従ってbは正しいでしょう。残りの選択肢についてははっきり言ってわかりません。教科書プリントとかup to dateとか信州大学耳鼻咽喉科のHPとか色々調べた中では何となくeは正しい気がしますが、保証はありません。】

7. 喉頭感覚の低下により、不顕性誤嚥をきたすのはどの神経が障害されたときか

- a. 反回神経
- b. 上喉頭神経
- c. 横隔神経
- d. 顔面神経
- e. 舌下神経

答え：b 喉頭知覚を司るのは上喉頭神経内枝。ちなみに外枝は前筋を支配。反回神経は下喉頭神経とも呼ばれ、前筋以外の内喉頭筋を支配。混同しやすいので注意。

50 才くらい。男性。8年前くらいに右耳の突発性難聴を罹患。その時はステロイドにて軽快に至った。3か月前から右耳の耳鳴りを感じるようになった。最近電話の右耳での声が聞き取りにくくなった。(問 8,9)

8. 診断はどれか

- a 突発性難聴の再発
- b 聴神経鞘腫
- c 前庭神経炎
- d 脳梗塞
- e

答え：b? 自信はないが、症状の出現の仕方（耳鳴り、難聴の出現）は聴神経鞘腫に当てはまる。後迷路難聴は語音が聞き取りづらいのが特徴。突発性難聴は急激な感音性難聴の出現で、ある日突然片耳が聞こえにくくなる。前庭神経炎は反復しない激しい回転性めまいが特徴。神経学的兆候も見られないことから、脳梗塞は否定的。

【補足：この問題で問われているのは「突発性難聴は再発しないということを知っているか」に尽きると思われます。難病情報センターにも「突発性難聴は再発しないことが一つの特徴とされており」とあります。また、同 HP には「発症が突発的であることから、ほとんどの患者さんが発症の時期やそのときの状況を覚えていることが多く、「何時からかははっきりしないが、徐々に聞こえなくなった」ような難聴は突発性難聴ではありません」とあるので、本症例に当てはまると考えて良いのではないのでしょうか。b に断定できる根拠は乏しいですが、除外法から自分も b を選びました。】

9. この疾患で有用でない検査、所見はどれか

- a. MRI
- b. ABR において～の完全消失
- c. 耳管通気検査
- d. カロリックテストにて患側の半規管麻痺
- e. 聴力検査

答え：上記があつていれば c

聴神経鞘腫の検査は、聴力検査で感音難聴所見だが、内耳性難聴所見でも否定できないことに注意。ABR では I ～ V 波の潜時の延長か、II 波以降の消失が見られる。カロリックテストでは CP（半規管麻痺）や、Bruns 眼振が見られる。CT、MRI での画像診断も必須。耳管通気検査は耳管開放症や滲出性中耳炎での検査。

11 60 歳男性、喉頭癌（T2N0）のため放射線療法を行った。1 年後に嘔声が出現、増悪。反回神経麻痺をきたしていた。MRI にて局所再発を認めた。

治療方針を決めるのに必要な検査は？

- a 腫瘍マーカー
- b 食道胃内視鏡
- c 頸部 CT
- d PET-CT
- e 骨シンチ

答え：d

MRI を行っているのに、頸部 CT のみでは検査有用性がないと考えられる。癌の治療において重要なのは stage 決定であり、TNM に基づくと、リンパ節転移を見るためには PET-CT が最も有用か。

12 検査の結果、転移はないと判明した。治療は何か。

- A 動注化学療法
- B 喉頭全摘術
- C 全身化学療法
- D ラリngoレーザーでの切除
- E ターミナルケア

答え：b

反回神経麻痺で嚥声をきたしているということは、片側声帯の可動性不良と考えられる。なので恐らく T2 以上は確定 (T1 が声帯運動正常、T2 以降が声帯運動制限)。ラリngoレーザー適応は T1 のみなので、選択肢の中では喉頭全的術が適応。動注化学療法は上咽癌の適応、局所再発なので全身化学療法は不要。喉頭癌が予後良好なのでターミナルケアは現段階で適応でない。ちなみに T2 だと部分切除の適応ではある。

13. 唾液腺腫瘍について誤っているのはどれか。

- a.ワルチン腺腫ではテクネシウムシンチ陰性が特徴である。
- b.造影ダイナミック MRI は診断に有用である。
- c.
- d.超音波では良性腫瘍は境界明瞭、辺縁平滑である。
- e.シアロ CT は、唾 液腺に造影剤を流して行う CT である。

答え：a

ワルチン腺腫ではテクネシウムシンチ陽性が特徴。その他は全て正解。シアログラフィーが唾液腺造影検査のことで、シアロ CT はシアログラフィー+CT のこと。造影 MRI の方が診断価値高く、シアロ CT の有用性は低い。

14、良性発作性頭位眩暈症で正しいのは？

- a 感音難聴
- b 瘻孔症状
- c Bruns 眼振
- d 回旋性眼振
- e 複視

答え：d

BPPV は頭位変換時に方向交代性の回転性めまいが起こる。持続時間は短い。本態は耳石の位置異常。瘻孔現象は骨迷路にできた瘻孔が原因でめまいが起こる現象で、真珠腫性中耳炎に見られる。Bruns 眼振は聴神経鞘腫に特徴的。難聴、複視などは起こらない。

15. ムンプス難聴について過ってるもの

- 1 急性発症
- 2 小児に多い
- 3 両側性
- 4 高度感音難聴
- 5 治癒しにくい

答え：3 耳下腺炎は両側に起きやすいが、難聴は片側性がほとんどなのが特徴。

16 耳鼻科領域の異物 まちがいは？

- a 外耳道 ビーズ
- b 鼻腔 硬貨
- c 気道 ピーナッツ
- d 咽頭 魚骨
- e 食道 義歯

答え：b さすがに鼻腔に硬貨は入らないんじゃないか…。硬貨は食道異物で見られやすい。他はよくある異物。

17 検査正しくないもの

1 涙検査→顔面神経

2 グリセロール検査→BPPV

3 ティンパノメトリー→滲出性中耳炎

4 カロリックテスト→前庭神経炎

5 ABR→機能性難聴

答え：2

グリセロールなど、浸透圧利尿薬を用いる検査はメニエール病に用いられる。投与後に内リンパ水腫が改善するのを、聴力閾値で確認。治療にも用いられる。BPPV とメニエール病は違いをしっかりとチェック。

19 誤りはどれか、1つ選べ。

a 咽後膿瘍-縦隔炎

b 流行性耳下腺炎-伝音難聴

c 慢性副鼻腔炎の急性増悪-視力障害

答え：b ムンプス難聴は片側性、内耳性難聴でしばしばめまいを伴い、回転性めまいを伴うのが特徴。

20.急性喉頭蓋炎の臨床症状でないものは。

- a ふくみ声
- b 味覚障害
- c 飲水時の誤嚥
- d 咽頭痛・嚥下時痛
- e 流涎

答え：b

症状として、咽頭痛、嚥下時痛、ふくみ声が特徴的。嚥下時痛で流涎が起きてもおかしくないし、急性喉頭蓋炎では嚥下障害として誤嚥も生じる。味覚障害は味蕾の障害で、喉頭蓋の炎症が波及するとはやや考えにくい。恐らくそこまで炎症が広がる前に窒息する。

21. めまいを来す疾患として正しいものを選び。

- a. Ménière 病では通常、聴力変動は認められない。
- b. 小脳梗塞では眼球運動異常は認められない。
- c. 前庭神経炎では、カロリックテストにて患側の高度反応低下が認められる。
- d. 聴神経鞘腫では、患側の ABR 無反応が認められる。
- e. BPPV では、内リンパ水腫が病態に関与している。

答え：c

メニエール病では低音域を中心とする難聴が見られる。小脳梗塞では眼球運動異常がある。聴神経鞘腫では ABR において潜時延長の所見あり、無反応とは言えない。内リンパ腫が関係するのはメニエール病。

22.急性中耳炎、滲出性中耳炎において正しいのは。

1. 溶連菌感染である
2. 鼓膜後上象限への切開
3. 鼻副鼻腔疾患との関連はない
4. 滲出性中耳炎には治療は必要ない
5. 保育所などに通園している乳幼児では耐性菌による難治な症例となる

答え：5

急性中耳炎で多いのは、肺炎球菌、インフルエンザ桿菌。副鼻腔炎は滲出性中耳炎の原因になる（耳管咽頭部周辺部の細菌感染）。治療は抗菌薬投与と鼓膜切開で前下象限部の切開を行う。5はその通り。ペニシリン、セフェム、カルバペネムなどβラクタム耐性が多い。

23 下記の疾患と症状の関連が間違っているものはどれか

- a 耳管開放症→耳閉塞感、自声強聴
- b メニエール病→回転性めまい、難聴、耳鳴り
- c 真珠性中耳炎→耳漏、難聴、回転性めまい
- d 良性発作性頭位性めまい→回転性めまい、難聴
- e ハント症候群→顔面神経麻痺、味覚低下、耳痛

答え：d

BPPV は短時間の反復する回転性めまいのみで、難聴を起こさない。他は選択肢通り。耳管開放症は真珠腫の原因になる。真珠腫では伝音難聴、悪臭伴う膿性耳漏が特徴的で、症状が進行すると迷路瘻孔や顔面神経麻痺などが見られる。ハント症候群は VZV 再活性。

25. 末梢性顔面神経麻痺であやまっているもの

- a 味覚障害
- b 顔面筋麻痺
- c 聴力障害
- d めまい
- e 涙が出ない

答え：d

抹消顔面神経麻痺により、顔面筋麻痺（額にしわ寄せできない）、味覚障害、流涙障害、アブミ骨筋麻痺による聴力障害（聴覚過敏）などが生じる。これらの症状は顔面神経障害の高位診断に使われる。

26 感音性難聴の原因として適切でないのはどれか？

- a 聴神経腫瘍
- b 強大音曝露
- c 側頭骨骨折
- d 外耳道真珠腫瘍
- e ストレプトマイシン

答え：d

聴神経腫瘍は後迷路性の感音難聴を示す。騒音難聴は感音難聴。側頭骨骨折では内耳障害をきたすことがある。ストレプトマイシンなどのアミノグリコシドの副作用で内耳障害が起こるのは重要。外耳道真珠腫は骨破壊が進行して伝音難聴が引き起こされる。

27、気管切開の適応にないもの

- 1、重症肺炎
- 2、口蓋扁桃肥大（マッケンジー2度）
- 3、長期人工呼吸管理
- 4、上咽頭癌による狭窄（再現ミス？）
- 5、不明だが、明らかに気管切開が必要な選択肢だった

答え：2,4

Mackenzie 分類 3 度だと左右扁桃がほぼ正中で接着するために、呼吸困難出現・気管切開が必要になるかもしれない。1 度は扁桃がわずかに突出する程度、2 度は 1,3 の間だから気管切開が必要ないと考えられる。重症肺炎には気管切開施行をする病院もある（痰の確実な吸引のため）。長期人工呼吸管理は管圧迫による組織損傷、壊死が起こるため気管切開の適応。上咽頭癌とか気管切開に全然関係ないから切開不適応だが、この選択肢で迷った覚えはない。再現ミスの可能性あり。

【補足：確か 2 つ選べの指示はなかったはずで、解答は b のみと思われます。再現ミスかな。】

28.中咽頭癌に分類されるものは？

- a.歯肉癌
- b.口腔底癌
- c.軟口蓋癌
- d.梨状陥凹癌
- e.舌癌

答え：c

中咽頭癌は扁桃癌、舌根癌、軟口蓋癌、咽頭壁癌の 4 亜系に分けられる。ちなみに梨状陥凹癌は下咽頭癌。他は口腔癌。

29. 頭頸部腫瘍の悪性転化所見として当てはまらないものはどれか？（頭頸部腫瘍でなく唾液腺腫瘍だった気がするが、記憶曖昧）

- a 顔面神経麻痺
- b 疼痛
- c 味覚障害
- d 頸部リンパ節腫脹
- e 急速な増大

答え：c?

多形腺腫の悪性転化により、癌が急速に増大・浸潤して顔面神経麻痺を引き起こす。疼痛もある。悪性化してリンパ節に転移して頸部リンパ節腫脹をきたしてもよいだろう。味覚障害の原因は薬剤、亜鉛欠乏、特発性などが多い。

30 慢性副鼻腔炎の原因にならないのは

- 1 気管支喘息
- 2 高血圧
- 3 鼻中隔壁湾曲
- 4 アレルギー性鼻炎
- 5 慢性気管支炎

答え：2

原因としては、局所因子（鼻中隔湾曲とそれに伴う鼻腔の形態変化）、全身性因子（精神的素因、栄養状態、アレルギーなどの免疫系の状態）が挙げられる。これらに当てはまらないのは高血圧のみ。

32.下咽頭癌について正しいものを2つ選べ。

- a.リンパ節転移が少ない。
- b.男性に多いが、女性では後壁型が多い。
- c.頭頸部の他部位に比べて重複癌が少ない。
- d.治療は化学療法、放射線療法、手術を組み合わせで行う。
- e.頭頸部悪性腫瘍の中では上顎癌や喉頭癌より予後が悪い。

答え：d,e

下咽頭癌はリンパ節転移が多く、予後不良と言われている。女性では輪状後部癌が多い。重複癌、特に食道癌との合併が多いので下咽頭癌が判明したら、上部消化管内視鏡検査は必須である。

34.先天性白内障で生じるのはどれか。

- a.斜視弱視
- b.不同視弱視
- c.形態覚遮断弱視
- d.円錐角膜
- e.角膜浮腫

答え：c

形態覚遮断弱視とは、先天性の眼瞼下垂や先天性白内障などのために、その目が使われず弱視になったもの。廃用性弱視とも言われる。不同視弱視は遠視・乱視など両眼の屈折異常により生じる。斜視弱視は斜視になっている眼の方を使わないために弱視になるものをいう。円錐角膜は角膜の形態学的異常、角膜浮腫は内皮細胞異常による前房水の角膜侵入による病態であり、先天性白内障との関連は特にない。

35.組織的に角層の肥厚が見られないのは

- a.鶏眼
- b.尋常性魚鱗癬
- c.尋常性疣贅
- d.尋常性乾癬
- e.尋常性天疱瘡

答え：e

尋常性天疱瘡は表皮内水疱を特徴とする自己免疫性疾患で、**ds-g-3** に対する抗体や、**Nikolsky** 現象が特徴的。他の疾患は全て角層の肥厚を引き起こす。

36 眼瞼炎について（正しいものか？）

- a.単純ヘルペスウイルス眼瞼炎は高齢者に発生しやすい
- b.ブドウ球菌眼瞼炎は抗生剤内服後数日で治癒する
- c.点眼薬では接触性眼瞼皮膚炎は起こさない
- d.眼部帯状疱疹(三叉神経第 1 枝領域)は眼症状をきたしやすい
- e.眼部帯状疱疹はステロイド眼瞼塗布を行う

答え：d?もしかしたら b かも

単純ヘルペスウイルス眼瞼炎は若年者で発生しやすい。B はやや怪しいが、内服ではなく局所投与で治療するのが一般的か。点眼薬は接触性眼瞼皮膚炎の原因になる。眼部帯状疱疹には基本アシクロビル投与で対処する。三叉神経第 1 枝に生じたもののうち、鼻尖部に皮疹がある場合には眼症状の合併が多く、これをハッチンソンの法則というらしい。

37.ドライアイの診断に必要なものはないものはどれか

- a.シルマー試験
- b.ローズベンガル試験
- c.涙管通水試験
- d.綿糸法
- e.涙液層破壊時間

答え：c

a,b はドライアイの基本的な検査。涙液層破壊時間はドライスポット出現までの時間を見る検査において 5sec 以下でドライアイと判定する。綿糸法はシルマー試験と似たような試験で流涙量を検査する。涙管通水検査は鼻涙管検査のことで、症状として流涙が見られる時に、通過障害を検査するのに行う。

38 急に視力低下をきたし肝膿瘍がある、最も疑わなくてはならないのは

- a.サイトメガロ
- b.带状疱疹
- c.陽性グラム桿菌
- d.陰性グラム桿菌
- e.トキソプラズマ

答え：d

肝膿瘍を基礎疾患とする細菌性眼内炎の症例。消化管関連ということでグラム陰性桿菌が原因である、というのが考えやすいか。

39 網膜中心動脈閉塞症の治療で誤っているものを1つ選べ。

- A 眼球マッサージ
- B 炭酸脱水素酵素阻害薬
- C 前房穿刺
- D 線溶療法
- E 硝子体手術

答え：e

網膜中心動脈閉塞症の初期対応は眼球マッサージ、前房穿刺、炭酸脱水素酵素阻害薬など眼内圧を下げる方向に働くものを行う。血流回復のために血管拡張薬や血栓溶解薬の投与も行う。Golden time は 40min と非常に短く、見逃してはいけない眼科救急疾患の1つ。

40:加齢黄斑変性で間違っているもの

- a.軟性白斑
- b.網膜下出血
- c.脈絡膜新生血管
- d.裂孔原生網膜剥離
- e.漿液性網膜剥離

答え：a

加齢黄斑変性は地図状萎縮を示す萎縮型と脈絡膜新生血管を伴う滲出型の2typeが特徴的。後者では新生血管の破綻で網膜下出血もあるし、網膜剥離も起こる。軟性白斑でなく硬性白斑が特徴的。

41 中年の男性、高血圧の既往あり、内服治療中である。本日、急に視力低下を自覚。病院で、眼圧を測定し、左右とも 20mmHg であった。その後、眼底検査を施行。血管に動脈硬化性病変を認める。網膜が全体的に白く見え、中心部が赤く見える様に感じる。

まず、何を行うか。

- a. 血圧測定
- b. 服薬を確認
- c. 血管確保
- d. 眼球マッサージ
- e.

答え：d

中心部が赤い＝cherry-red-spot＝網膜中心動脈閉塞症 s/o。他にも cherry-red-spot をきたす疾患があるが、急激な視力低下も自覚していることから網膜中心動脈閉塞症と考えてよいだろう。治療は前述参照でお願いします。

42 漿液性網脈絡膜症で正しいものはどれか。（恐らく中心漿液性網脈絡膜症）

- 1 特定疾患である。
- 2
- 3 煙草とストレスを除けば改善する
- 4 視力の予後は不良である
- 5 ステロイドパルスによる治療を行う。

答え：3

中年男性の片眼に生じる黄斑部を中心とした 2 漿液性の限局性網膜剥離を指す。原因不明であるが、心身的ストレスやステロイド薬投与が誘因で起こることがある。症状は中心視力低下、変視症など。治療は経過観察、安静を心がける。罹患期間の短縮と遷延化防止のために光凝固を行う。予後良好の疾患。

43 蛍光眼底造影検査で中心窩から耳側 1 乳頭径に蛍光漏出を認めた。治療法として正しいのはどれか。

1. 硝子体手術
2. 硝子体にステロイドを注入
3. 放射線療法
4. 抗菌薬の眼球結膜注射
5. 網膜光凝固術

答え：5

恐らく中心性漿液性網脈絡膜症だろうか。そう考えると治療は経過観察 or 光凝固。

44 屈折異常について正しいものはどれか？

- a 角膜の屈折力は約 40D である
- b 水晶体の屈折力は角膜のそれより大きい
- c 眼軸長が長いほど遠視を生じやすい
- d 乱視とは物が二重に見えることである
- e 混合性乱視とは屈折異常のほかに病変を合併しているもののことである

答え：a

角膜 40D と水晶体 20D は大事。この値から b が間違いは自明。眼軸長が長いと近視を生じやすい。d が微妙だが、定義は縦軸・横軸でそれぞれの焦点距離が異なることで網膜に像が結べないことをいうものであり、物が 2 重に見えることが定義ではない（間違いではないが）。2 重に見えるなら複視とかも当てはまる。混合正乱視は、網膜の前後に、直角方向及び水平方向の焦点が別々に存在すること。詳しくは成書参照をお願いします。

45 白内障について分類で誤っているもの

- a 皮質白内障
- b 核白内障
- c 前囊下白内障
- d 中囊下白内障
- e 後囊下白内障

答え：d

d 以外の選択肢は白内障の分類として存在する。これ以外にも全白内障がある。

46 視神経に関して正しいのはどれか？

- a 視神経乳頭陥凹は緑内障眼に特異的に認められる
- b 視神経乳頭に入る神経線維層は水平方向に最も密である
- c 視神経は網膜神経節細胞の軸索である
- d 正常眼圧緑内障では視神経乳頭陥凹をきたすことが少ない
- e 前部虚血性視神経症では中心暗点を認めることが多い

答え：c

少なくとも c は正しい。視神経乳頭陥凹は生理的に見られる所見でもある。b は不明。正常眼圧緑内障で視神経乳頭陥凹を認めることは比較的ありそう。少なくとも「少ない」との記載はない。前部虚血性視神経症では水平半盲が特徴的であり、中心暗点は見られない。

【補足：b について正式な記述は見つけれませんでした。間違いとも思えないんですよ、、、。でも、c は正しい。】

48 眼瞼内反症と最も関連があるのはどれか。

- a.三叉神経痛
- b.眼球運動障害
- c.角膜上皮障害
- d.ホルネル症候群
- e.抗コリンエステラーゼ剤投与

答え：c

睫毛が眼球に接触するために角膜に点状表層角膜症を生じる。先天性、老人性などがある。

49 誤っているものを選べ。

- 1 頭蓋内圧の亢進をうっ血乳頭と定義する
- 2 静脈の拍動が消失する
- 3 眼圧の低下で起こることがある
- 4 蛍光色素が漏出する
- 5 硝子体側に視神経が食い込む

答え：1

非常に面倒な問題。うっ血乳頭、乳頭浮腫などの言葉の定義は教科書によって異なる（英語の訳し方が異なるため）。というわけでプリントをチェックすると、頭蓋内圧亢進をうっ血乳頭 **choked disc** としている。（少なくとも A6MB のプリントでは）なので a は間違い。それ以外は正しい選択肢。血管の透過性亢進ももちろん起こる。

【補足：過去問の類似問題。選択肢 1 は「乳頭浮腫がみられれば頭蓋内圧が亢進している」といった選択肢だったはず。乳頭浮腫の中で、頭蓋内圧亢進によるものを特にうっ血乳頭と呼ぶので、1 が誤りです。標準眼科学でもこのように記載されています。】

50.複視を生じるのはどれか。

- a.甲状腺機能亢進症
- b.副甲状腺機能亢進症
- c.網膜中心動脈閉塞症
- d.網膜色素変性症
- e.Alport 症候群

答え：a

過去問通りだった気がする。他に複視をきたす疾患として重症筋無力症、動眼神経麻痺、**blow out** 骨折などが挙げられる。網膜中心動脈閉塞は急激な視力低下、網膜色素変性症では視野狭窄、光覚異常（夜盲）が特徴的。Alport 症候群は血尿と感音難聴が特徴だが、白内障、円錐水晶体などの水晶体異常を引き起こすこともある。

52 網膜中心静脈閉塞症に続発して起こる、虚血が由来の難治性合併症は以下のうちどれか。

- a.網膜中心動脈分枝閉塞症
- b.網膜中心動脈閉塞症
- c.低眼圧緑内障
- d.錐体杆体ジストロフィー
- e.新生血管緑内障

答え：e

虚血性網膜疾患に起因する血管新生因子が全眼部に拡散し、瞳孔縁や隅角に新生血管を発芽させる。その結果、新生血管は虹彩、隅角表面に進展し、繊維性血管膜を形成し、隅角を閉塞する。増殖性糖尿病網膜症、網膜中心静脈閉塞症などが他の原因として挙げられる。

53 内斜視について誤っているもの

- 1 調節性内斜視は眼鏡装用でよくなる
- 2 調節性内斜視は高度近視にみられる
- 3 網膜芽細胞腫や先天白内障でみられる
- 4 交代性上斜位で頭位異常がみられる
- 5 間歇性外斜視は予後がよい

答え：2 調節性内斜視は高度遠視で見られる。

55.最も弱視をおこしやすいものはどれか。

- 1.両眼の中等度近視
- 2.間欠性外斜視
- 3.交代固視の内斜視
- 4.偽内斜視
- 5.遠視性不同視

答え：5? 自信ないです。というか分からない。

【補足：

1について。近視では弱視は起こりません。(近くは見えるので。)

2について。間歇性というだけあって、まっすぐ見ている時間もあるので弱視は起こりにくいです。

3について。乳児に内斜視があっても、左右ほぼ均等の頻度で斜視が起これば交代固視といって、弱視を生ずる事はあまりありません。

4について。赤ちゃんでは(生理的に)両眼距離が離れていたり、ダウン症などで内眼角贅皮があったりすると、鼻側の白目が隠れ、内斜視のように見ることがあります(医学用語でなくてすみません)。この場合、視機能に問題はありません。

5について。不同視とは両眼の屈折度数が著しく異なるものです(2D以上)。あまりに屈折度数が異なる場合、調節によってピントを合わせようとしても片方しか合わせられません。従って、ピントを合わせやすい方の眼だけ用いて見るようになり、対側眼に弱視が起こります。

長々と書いて申し訳ないですが「遠視や不同視は弱視を起こしやすい」だけで十分です。】

56. 次のうち、正しいものはどれか。

- A. うっ血乳頭は、頭蓋内圧亢進により、両側の乳頭浮腫をきたしたものである。
- B. 虚血性視神経症は、。。。。と、視神経乳頭の解剖学的因子により発症する。
- C. 外傷性視神経損傷は、後頭部の外傷で起こりやすい。
- D. 頭蓋内腫瘍では、両側視野に異常を伴う。
- E.

答え：a?

うっ血乳頭は両側に乳頭腫脹が起こる、で良いと思う。頭蓋内圧亢進が原因なので、片側より両側に起こるのが自然か。虚血性視神経症とは 50～60 歳以後の老人を主として片眼に急激かつ高度の視力障害をきたすこと。非動脈炎性と動脈炎性がある。解剖学的因子との関連は不明。外傷性視神経損傷は眉毛の上外側（視神経管が位置する）。視神経交叉部以前の部分の圧迫では片側性の視野障害が起こる、と考えてよいか。

57 ステロイド内服中の患者さんが眼圧上昇したため受診しました。以下の文章から対応として間違えているものを答えなさい。

- 1、視野検査を行う。
- 2、隅角検査を行う。
- 3、ステロイドの使用計画について主治医に確認する。
- 4、眼圧検査を行う。
- 5、ステロイドを直ちに中止する。

答え：5

ステロイドの急激な中止はやってはいけない。内服量にもよるけど、副腎萎縮のためにステロイドが足りず、副腎不全をきたすこともある。

58 網膜レーザー光凝固の適応がないものはどれか

- a.単純性糖尿病網膜症
- b.前増殖性糖尿病網膜症
- c.増殖性糖尿病網膜症
- d.網膜静脈分枝閉塞症
- e.網膜中心静脈閉塞症

答え：a<c

b,d,e は網膜レーザー光凝固の適応がある。a と c はかなり微妙。プリントだとどちらもや
らなさそうだし（単純は経過観察、増殖性にはベバシズマブ投与で down stage の後に光凝
固）、現代の眼科学にはどちらも網膜光凝固を行う、との記載がある。考えようでは、単純
性だと網膜光凝固は基本行えるが、増殖性で牽引性網膜剥離を起こしやすい状態だと、硝
子体手術の適応しかないかもしれない。というわけで a<c かと思われるが、不明。

【補足：プリントに「光凝固は無灌流領域をレーザー光で破壊し、」とあり、「単純網膜症
では無灌流領域は認められない」とあるので、a は正しいとして良いのではないで
しょうか。増殖性網膜症に対して光凝固を行う、という記述はちょっと探すとたくさん出てきます。
というか、選択肢 c の内容は 96H59 の a と同義なんです。従って、本問の選択肢 c を否定
することはできないと思います。自分は a を選んだ記憶があります。】

59 Vogt-小柳-原田病について正しいものを選べ。

- a.日本人を中心に、アジア人やアメリカインディアンに多い
- b.HLA-B51 陽性
- c.片眼性
- d.前駆症状はみられない
- e.発症初期に夕焼け状眼底をみとめる

答え：a

日本人、アジア人などに多い。HLA-B51 はベーチェット病に特徴的。感冒などの前駆症状
の後に、両眼の急性びまん性ぶどう膜炎を発病する。特徴は 2～3 か月後に見られる夕焼け
状眼底。

60 64 歳女性、10 年前より高血圧、8 年前より狭心症の内服加療を行っていた。5 日前の夕方、突然の左眼の鼻側視力低下を自覚し、翌日来院した。

検査所見：左眼矯正視力 指数弁 30 c m、左眼上耳側 0.01 、左眼眼圧 10mmHg

眼底写真 2 枚、スケッチ 1 枚

- A 脈絡膜剥離
- B しょう液性網膜剥離
- C 裂孔原性網膜剥離
- D 牽引性網膜剥離
- E 黄班前膜

答え：不明 画像見ても全くわかりませんでした。学生レベル超えてる…

【補足：画像は全然分かりませんでした。鉛筆コロコロ…。】

61. 65 歳男性、朝から左目が閉じないこと、飲水時に左口角から水が溢れることを主訴に来院。眼科としてすべきことは？

- a. 翌日には治るので経過観察
- b. 感染を防ぐため、抗生剤投与
- c. 乾燥を防ぐため、眼軟膏
- d. 疼痛緩和のため、麻酔薬の点眼持続
- e. 睫毛が角膜を傷つけるので、睫毛を抜去

答え：c

顔面神経麻痺により兔眼（眼を閉じることができず、眼が赤くなる）が起こる。眼を閉じることができないので眼の乾燥の原因になるので、その対処は眼科医として必要か。

62. 角膜の屈折率としてもっとも近いのはどれか。

- a. 15D
- b. 30D
- c. 45D
- d. 60D
- e. 75D

答え:c 40D に一番近いのはこれ。

63. ドライアイにならないものはどれか。

- a. 糖尿病
- b. 骨髄移植
- c. 鼻涙管閉塞
- d. 関節リウマチ
- e. AIDS

答え:c 鼻涙管閉塞が起これると、涙点から下鼻道への通過障害が起これり、流涙の原因となる。ドライアイは教科書の記載が少ないのでプリントチェック。

65. 開放隅角緑内障に関して誤ったものを2つ選べ

- a. 正常眼圧緑内障の比率は少ない
- b. 遠視眼に多い
- c. 糖尿病患者が多い
- d. 狭隅角のこともある
- e. しばしば自覚症状がないことがある。

答え:a,b 授業プリントについている問題通り。正常眼圧緑内障の割合が日本では多い。合併が多いのは近視。

66. 網膜中心静脈閉塞症に合併するものは

- a. 網膜中心静脈分枝閉塞
- b. 黄斑浮腫
- c. 牽引乳頭
- d. 脈絡膜新生血管
- e. 血管新生緑内障

答え：e

a は網膜中心静脈分枝閉塞症。黄斑浮腫は光凝固治療後の合併症で、ステロイドによりある程度の予防が可能とされる。牽引乳頭は未熟児網膜症の分類で **grade2**。脈絡膜新生血管は加齢性黄斑変性。

67. 壊疽をきたさないものは

- a. 糖尿病
- b. アレルギー性紫斑病
- c. 強皮症
- d. SLE
- e. コレステロール塞栓

答え：b?

糖尿病壊疽は有名。強皮症やコレステロール塞栓では血流障害が起こるため、壊疽が起きてもおかしくない。SLE やアレルギー性紫斑病は両者とも壊疽は起こしにくそうだが、SLEの方が起きそう。APS が SLE に合併しやすいなどを考えても、壊疽の起こしにくさは $b > d$ でいいと思われる。

68. 63 歳男性。数年前から右頬部の腫瘤に気付いていたが、症状がないため放置していたところ、腫瘤は徐々に拡大し、初診時には図（直径 2cm ほどのドーム状に盛り上がる黒色腫瘤。表面はざらざら、ひび割れ？）のようになった。診断はどれか。

- a. 有棘細胞癌
- b. ボーエン病
- c. 悪性黒色腫
- d. 扁平疣贅
- e. 脂漏性角化症



答え：e

テコムの三苦曰く「褐色、黒色の粘土のようなものが張りついたもの」。本症例はまさにそのような所見だったと思われる。色調も黒で比較的均一だったこと、増大の仕方も緩やかなので、良性腫瘍と考えて良さそう。扁平疣贅は青年特に女性に多い。画像は成書で。

69. 固定薬疹について正しいもの。(c は曖昧です)

- a. 粘膜移行部、四肢にみられやすい。
- b. 内服後、2.3 日後にみられる。
- c. 薬疹が消失するまで 2.3 週間かかる。
- d. 原因として抗がん剤が多い。
- e. 中断後軽快には 1 か月以上かかる。

答え：a

過去問通りだと思う。原因となる薬剤の服用後、数分～数時間で掻痒感やピリピリ感を伴って、紅斑～褐色斑が皮膚面や粘膜移行部に出現。薬剤性過敏性症候群との違いに注意。

70.Tzanck 試験で診断できるものはどれか

- a.接触性皮膚炎
- b.蕁麻疹
- c.丹毒
- d.単純性疱疹
- e.基底細胞腫

答え：d Tzanck 試験は水疱内細胞診と考える。単純性疱疹ではヘルペスウイルスに感染した細胞（巨細胞）が見られる。他に尋常性天疱瘡でも診断に利用する。

71.アトピー性皮膚炎に合併しにくいもの

- a.紅班
- b.不眠
- c.伝染性膿痂疹
- d.kaposi 水痘様発疹症
- e.アナフィラクトイド皮疹

答え：e アトピー性皮膚炎には紅斑が見られ、伝染性膿痂疹、kaposi 水痘様発疹症、白内障などが合併しやすい。掻痒のための不眠もあるだろう。アナフィラクトイド紫斑との関連性は特に指摘されていない。

72.貨幣状湿疹に関して誤っているものを選べ

- a.掻痒が著しい
- b.自家感作性皮膚炎に移行することがある
- c.周囲に牡蠣状の鱗屑
- d.下腿に好発
- e.老人性乾皮症に伴うことがある

答え：c cの選択肢はノルウェー疥癬の特徴。それ以外は全て貨幣状湿疹の特徴といえる。

74.ケロイドについて。(恐らく間違いを選べ)

- a,紅色
- b,顔・上腕・胸部に発症する。
- c,男性に多い。
- d,自然治癒する。
- e,痛み・かゆみがある。

答え：c

炎症・外傷後に境界明瞭な紅色の腫瘤状隆起を形成する。好発部位は上記の通り。疼痛・掻痒感あり。治療は基本保存療法や、薬物療法でステロイドの外用など。安易な切除は必ず再発・増悪の原因となる。性差はない、と考えて良さそう。ケロイド体質が原因。

75.掌蹠膿疱症について正しいものを一つ選べ。

- a.喫煙で軽快する
- b.抗核抗体が陽性である
- c.金属アレルギー、細菌アレルギーが原因になる
- d.ステロイド外用は無効である
- e.膿疱の内容に黄色ブドウ球菌が認められる

答え：c

扁桃炎、虫歯、副鼻腔炎などの病巣感染が根本にある。患者の多くは喫煙歴あり。抗核抗体は認められない。他にも金属などが原因となって手掌や足蹠に無菌性膿疱が対称性に見られる。治療はステロイド外用と PUVA 療法。

76 (問題不明。恐らく脂漏性角化症について正しいものを1つ選べ。だった気がする)

- a. 全体の 1/4 が悪性化する
- b. しばしば悪性黒色腫や基底細胞癌と鑑別が必要となる。
- c. 別名日光角化症とよばれる。
- d. 多発した場合、悪性化を疑う。
- e. 悪性腫瘍である。

答え：b

上記のものとして解説する。良性腫瘍の1つであるが、組織像で偽角質囊腫が見られ、しばしば悪性腫瘍との鑑別を要する。多発化した場合は **Leser-Trelat** 徴候と呼ばれ、内臓悪性腫瘍の合併が疑われる。別名老人性疣贅。日光性角化症は前癌病変の1つ。

77.73歳の男性。約30年前から高血圧と糖尿病の既往があり、数種類の薬剤を内服していた。数年前から足の爪が白く濁っているのに気付いていたが、自覚症状がないため放置していたところ、病変部は次第に他の指に拡大した。(画像付)

この疾患と関連があるのはどれか。

- a. アンジオテンシン変換酵素阻害薬
- b. スルホニル尿素
- c. Auspitz 現象
- d. trichophyton rubrum
- e. mycobacterium avium

答え：d

どうやらこれ、白癬の学名のよう。白癬ができる部位で原因白癬菌が若干変わるようだが、基本 **Trichophyton**~ なので、これだけ抑えておけば良いか。

78. 肉芽腫を来すものはどれか。

- a.乳房外 Paget 病
- b.スプロトリコーシス
- c.Kaposi 肉腫
- d.混合性結合組織病 (MCTD)
- e.Behcet 病

答え：b

スプロトリコーシスは土や腐った木に腐生しており、身体 of 末端に感染して肉芽腫を形成する。

79.疼痛を伴う疾患を一つ選べ

- a.Bowen 病
- b.魚鱗癬様紅皮症
- c.丹毒
- d.酒さ様皮膚炎
- e.

答え：c

丹毒は A 群 β 溶連菌の感染による急性びまん性膿皮症のことを指す。顔面、下腿に好発し、局所発赤、熱感、圧痛あり。というわけで痛い。

80 35 歳女性。5 ヶ月前に農作業中に手背に外傷を受けた。3 週間後から同部に発赤と腫張が出現し潰瘍化してきた。ヨウ化カリウム 3 ヶ月内服し治癒した。

考えられる病原体はどれか

- 1：寄生虫
- 2：真菌
- 3：スピロヘータ
- 4：リケッチア
- 5：ミコバクテリウム

答え：2

ヨウ化カリウムを治療に用いるのはスポロトリコーシス。というわけで真菌。

81 紅斑について正しいもの。

- 1.風疹では融合して大型となる。
- 2.麻疹では色素沈着を残す。
- 3.突発性発疹では網目レース状となる。
- 4.伝染性紅斑では点状出血が混ざる。
- 5.Gianotti 病では体幹部に生じる。

答え：2

風疹は融合傾向なし。網目レース状となるのは伝染性紅斑。点状出血とは皮膚科の定義上直径 5mm 以下の出血のことで紫斑の一種。Gianotti 病は手背や足背に出現。体幹には少ない。

82. 白斑をきたす疾患はどれか

- a 脂腺母斑
- b 太田母斑
- c 結節性硬化症
- d 肥満細胞腫

答え：c

結節性硬化症は葉状白斑が特徴的。脂腺母斑は黄～褐色調の局面隆起で基底細胞癌を発生することがある。太田母斑は真皮メラノサイト、三叉神経領域に見られる。肥満細胞腫はDarier 徴候が特徴（皮膚描記で膨疹が見られる）。

83. 乾癬から海水浴で全身に皮疹。検査は？

- a 皮膚生検
- b ポルフィリン

答え：a?

ちょっと再現が少ないので何とも言えないが、皮膚疾患で確定診断と言えれば基本は組織診断だから問題ないと思われる。尋常性乾癬で急な日焼けは症状悪化を招くことも。適度な日光浴はむしろ推奨されている。晩発性ポルフィリン症も光線過敏あり。選択肢はそのひっかけか。

86. この疾患で鑑別に重要でない検査はどれか。(確か画像あり。乳房外 Paget 病か陰部カンジダかで意見が割れた問題だった)

1. 皮膚生検
2. 骨髄生検
3. Tzanck 試験
4. 糸状菌検査
5. 細菌培養検査



答え：2

画像はとりあえず乳房外 Paget 病を添付。正直どちらの疾患か分からなかったし、問題文ではもうちょっと長い経過が書かれている気がした。いずれにせよ、2 以外は皮膚組織などの検査として重要。骨髄検査から得られるデータは少ないのではないかと思われる。

【補足：60 代ぐらい女性の症例だった気がします。これ、連問のうちの一つではじめに疾患名を問われた記憶があります。選択肢には確か、乳房外 Paget 病、カンジダ、菌状息肉症、陰部白癬などが含まれていた記憶が。選択肢 b は菌状息肉症を意識したものなんだろうが、たとえ菌状息肉症だったとしても骨髄生検じゃなくて皮膚生検するよね、、、？とりあえず自分も 2 を選びました。】

87. 10 歳の男児。次の画像について誤っているものはどれか。

- (a) 丘疹は認められる。
- (b) 痂皮は認められる。
- (c) びらんは認められる。
- (d) 膨疹は認められる。
- (e) 紅斑は認められる。



答え：d

水痘だった気もするが不明。水痘で話を進めると、a,e は湿疹三角に含まれるので見られてよい。水痘ならびらん、痂皮もあって良いだろう。膨疹は真皮浮腫で水痘との関連は無い。

90. SLE にみられないもの

- a. 蝶形紅斑
- b. 脱毛
- c. 光線過敏
- d. 口腔内潰瘍
- e. 結節性紅斑

答え：e

SLE の診断基準をチェック。脱毛は可逆的に見られる。DLE だと不可逆的な脱毛。結節性紅斑は Bechet 病で特徴的。

91 KOH 検査が有効でないものは？

- a でんふう
- b 乾癬
- c 疥癬
- d 白癬
- e カンジダ

答え：b

乾癬は炎症性角化症の一種。KOH 検査は真菌検査に有用であり、感染症でない乾癬には有効でない。

92 菌状息肉症について正しいものはどれか

- a 皮膚原発の B 細胞リンパ腫である
- b ポートリエ微小膿瘍がみられる
- c 紅斑期、紫斑期、腫瘍期という経過をとる
- d 早期にリンパ節転移をおこす
- e ステロイド内服が主な治療法

答え：b

菌状息肉症は T 細胞リンパ腫で、ポートリエ微小膿瘍が特徴。紅斑期、局面期、腫瘍期の経過を取る。腫瘍期に至るまでに数年要し、この頃にリンパ節転移を始め、他臓器への遠隔転移が見られる。治療は PUVA 療法、ステロイド外用。ステロイドは外用と内用注意。

93 86 才女性。1 年前より皮疹があり徐々に増大傾向。(顔面に)易出血性の(赤色の)結節を認める。写真付き！

先行病変として正しいのは？

- 1. 脂漏性角化症
- 2. 日光角化症
- 3. 白板症
- 4. 色素性乾皮症
- 5. 表皮囊肿

答え：不明

画像すら覚えていない。有棘細胞癌と考えれば、前癌病変は日光角化症でいいのではないか。色素性乾皮症も先行病変となりうるが、年齢的に除外か。XP は、わが国で多い A 群だと 20 歳くらいまでに神経障害あるいは皮膚悪性腫瘍で死亡する。

94 78 歳女性 4 日前から右頭痛あり。今朝右前頭、右上眼瞼に小水疱が出現した。正しくないものは

- 1 水痘の既往あり
- 2 全身に汎発することあり
- 3 顔面神経麻痺をきたすことあり
- 4 角膜炎をきたすことあり
- 5 治療は抗生剤内服である

答え：5

VZV 再活性化による帯状疱疹。全身に汎発することあり。顔面神経麻痺（Ramsay Hunt 症候群）や角膜炎も起こりうる。治療はアシクロビル（抗ウイルス剤）。

95、96 45 歳男性、突然の皮疹（写真：TEN？重症熱傷）のため、救急車で運ばれてきた。

95 正しいのはどれか。

- a)1 度は2週間で瘢痕を残さずに治癒する。
- b)2 度は3～4週間で瘢痕を残さず治癒する。
- c)3 度は水疱は形成しないが注射針で刺すと痛みがある。
- d)初期輸液は乳酸加リンゲルを使う。
- e)初期は新鮮凍結血漿やアルブミン製剤を投与する。

答え：d

熱傷か TEN か分からなかったが、どちらにしろ治療は同じ。TEN は2 度熱傷として治療を行う。1 度熱傷は2 週間もかからない。2 度熱傷は水疱形成し、浅達性だと2 週間、深達性だと1 カ月以上で瘢痕を残して治癒する。3 度は痛みを感じない。初期に FFP、Alb 製剤を使用して治療することはない。ショックが起こることも考慮して乳酸加リンゲルから開始。減張切開を忘れない。

96. 将来的に起きやすい疾患は？

- a 基底細胞癌
- b 有棘細胞癌
- c 悪性黒色腫
- d 乳房外パジェット
- e 隆起性線維肉腫

答え：b

熱傷と考えると、有棘細胞癌でいいと思われる。他の **risk factor** として白板症、尋常性狼瘡、慢性放射性皮膚炎、XP、ヒ素中毒が挙げられる。

97. ニコルスキー現象が陽性にならないものはどれか。

- a. 尋常性天疱瘡
- b. 落葉状天疱瘡
- c. 水泡性類天疱瘡
- d. 中毒性表皮壊死症
- e. ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群

答え：c cは表皮内水疱が起こる疾患。ニコルスキー現象は表皮下水疱で起こる。

【補足：解説、「内」と「下」が逆なのでは？】

98 黄色ブドウ球菌によって起こるもの2つ

- a 尋常性ざそう
- b 丹毒
- c 水疱性膿痂疹
- d 壊死性筋膜炎
- e 化膿性汗腺炎

答え：c,e

99 溶連菌感染によって起こるもの2つ

- a 尋常性ざそう
- b 丹毒
- c 水疱性膿痂疹
- d 壊死性筋膜炎
- e 化膿性汗腺炎

答え：b,d

98 とセットの問題。やや不適切問題。壊死性筋膜炎はメインは溶連菌だが、黄色ブドウ球菌感染でも起こる。ただし問題の意図、頻度的にはこれが正解で問題ない。ちなみに尋常性痤瘡の原因菌はアクネ菌。

100 組織標本について (なぞな病理画像をみて正しいものを1つ選ぶ)

- a.若年者に好発する
- b.良性疾患である
- c.メラノサイト由来の疾患である
- d.体幹に好発する
- e.局所浸潤は強いが遠隔転移は稀である

答え：不明 まったく分からなかった。

【補足：腫瘍の最外層細胞が柵状配列をとっていることに気付けるかどうかです。ということ
ことで症例は基底細胞癌。解答はeです。】